

**医療関連感染**  
**Journal of Healthcare-associated Infection, JHAI**  
**投稿規程 第3版**  
**2018年8月改定**

ジャーナル「医療関連感染」は、医療関連感染の各領域に関する未発表の投稿論文等を掲載する。

## **1. 論文の種類**

### **1.1. 投稿による論文**

(1) 原著 (original article)

独創性に富む論文で、明確かつ十分な新知見を認める論文 (meta-analysisを含む)。

(2) 短報 (concise communication)

情報が限定的であるが、独創性に富む、明確な新知見を認める論文。

(3) 報告 (report)

疫学調査、アンケート調査などで、編集委員会が掲載に値すると評価した研究論文。

(4) 実践報告 (practice report)

実践活動の経験や病院見学レポートなどを含む、幅広い活動について編集委員会が掲載に値すると評価した報告。

### **1.2. 編集委員会が依頼する原稿**

(1) 総説 (review)

(2) 特集 (special topic)

(3) その他

## **2. 投稿者の資格**

投稿者の資格は特に定めない。

## **3. 論文投稿時に提出が必要な書類**

### **3.1. 誓約書ならびに同意書**

投稿時には、必ず下記内容の「誓約書ならびに同意書」に署名の上、4. 論文の提出方法に従い提出すること。書式は、東京医療保健大学大学院ホームページに掲載されているものをダウンロードして用いること。

(1) 原稿の内容が未発表 (英文誌を含めて他誌への重複投稿をしていない) であること。

(2) 掲載された原稿の著作権が東京医療保健大学大学院に帰属し、無断で他誌へ図表を転用しないこと。

(3) 著者ならびに共著者の同意書 (署名)

### **3.2. 引用承諾書**

図表などの他誌からの引用に関しては、自著、他著に関わらず必ず出版社または著者本人からの引用承諾書を提出すること。

#### 4. 論文の提出方法

原稿は電子ファイルとする。「誓約書ならびに同意書」、必要に応じて「引用承諾書」は、PDFファイルとし原稿とは別のファイルで提出する。原稿、「誓約書ならびに同意書」、必要に応じて「引用承諾書」は、下記e-mail アドレスへ一緒に提出すること。  
提出先 JHAIアドレス：jhai@thcu.ac.jp

#### 5. 論文掲載の採否

原則として査読者2名による査読の結果をもとに編集委員長が行う。査読者からの意見があった場合には、提示された期限内に修正論文を提出すること。期限内に修正論文を提出しない場合は不採用とする。

受理された論文原稿等は返却しない。

#### 6. 論文の受付日と受理日

投稿論文の受付日は、編集委員会が投稿に関わる必要書類が揃ったことを確認した日付とする。投稿論文の受理日は、査読後、最終的に本誌への掲載を許可された日付とする。

#### 7. 著作権の帰属

- (1) 本誌掲載内容（インターネット上で公開する電子媒体を含む）の著作権は、全て東京医療保健大学大学院に帰属する。
- (2) 本誌内で掲載されている図表など原著性の高い内容を他の雑誌や書籍刊行物にて利用する際には、本誌編集委員長に対して必ず書状にて許諾申請を行うものとする。許諾申請がある場合には、JHAIアドレス：jhai@thcu.ac.jp へメールにてその趣旨を伝え指示に従う。

本誌誌面内容使用に関する許諾申請書には、下記の内容を付記すること。

- (a) 引用する学会誌の論文の号・巻・頁・年度・タイトル・筆頭著者名・使用したい図表等の掲載頁とその図表番号
  - (b) 利用目的
  - (c) 依頼者住所・氏名・電話番号・FAX番号・電子メールアドレス・自筆署名
- (3) 使用許可のおりた図表等の利用に関しては脚注あるいは参考文献として原著を引用文献として明示すること。

#### 8. 本誌掲載内容のインターネット上での公開

投稿者は、投稿内容が受理され本誌に掲載された場合、本誌掲載内容がインターネット

上で公開されることについて了解しているものとする。

## 9. 倫理規定について（下記いずれの場合も本文中に承認番号を記載することが必要である）

- (1) 人体を対象とした研究及び調査研究などでは、所属施設等のヒトに関する倫理委員会の承認が必要である。
- (2) 動物を対象とした研究では、所属施設等の動物実験委員会の承認が必要である。
- (3) ヒトゲノム・遺伝子解析研究においては、所属施設等の遺伝子組換え実験安全委員会の承認が必要である。
- (4) BSL2以上の微生物を対象とした研究においては、所属施設等の病原体等安全管理委員会の承認が必要である。

## 10. 利益相反について

投稿に際しては、利益相反(Conflict of Interest : COI)に関する情報開示を必要とする。

- (1) 論文の内容に関連する営利団体(企業)からの100万円以上の研究費・寄附金・謝礼等の提供を受けた場合。
- (2) 論文の内容に関連する営利団体(企業)の社員・顧問等の雇用、契約がある場合。

## 11. 論文の形式

投稿論文の言語は、日本語あるいは英語とする。英文投稿の場合の規定は、和文投稿に準ずる。但し、和文のタイトル・著者名・所属・要旨・キーワードを原則併記すること（海外からの投稿の場合例外あり）。下記の論文ごとに定められた項目でまとめること。論文データ作成に関しては、「14. 論文ファイル作製に関する規定」に記述する。

- (1) 原著：下記の項目で作成すること。論文の長さおよび図・表の枚数制限はなし。簡潔、明瞭に記載する。

表紙、要旨（600字以内、背景・目的、方法、結果・結論の項目立てを行う）、キーワード（5語以内）、本文（はじめに、方法、結果、考察、謝辞 [必要に応じて]、利益相反の明記、引用文献）、英文でタイトル・要旨・キーワード（日本語に対応するもの）、図・表

- (2) 短報：下記の項目で作成すること。論文の長さおよび図・表の枚数制限はなし。簡潔、明瞭に記載する。

表紙、要旨（600字以内、背景・目的、方法、結果・結論の項目立てを行う）、キーワード（5語以内）、本文（はじめに、方法、結果、考察、謝辞 [必要に応じて]、利益相反の明記、引用文献）、英文でタイトル・要旨・キーワード（日本語に対応するもの）、図・表

- (3) 報告：下記の項目で作成すること。論文の長さおよび図・表の枚数制限はなし。簡

潔、明瞭に記載する。

表紙、要旨（600字以内、背景・目的、方法、結果・結論の項目立てを行う）、キーワード（5語以内）、本文（はじめに、方法、結果、考察、謝辞 [必要に応じ]、利益相反の明記、引用文献）、英文でタイトル・要旨・キーワード（日本語に対応するもの）、図・表

(4) 実践報告：本文（形式は規定しない）、引用文献、図、表

(5) 総説・特集・解説：形式は、規定しない。簡潔・明瞭に記述する。

## 12. 項目の内容

### 12.1. 表紙

表題（論文の主題を的確に表すもの）、著者名、所属、連絡先〔郵便番号、住所（施設の場合は所属機関、所属科名などを明記のこと）、電話番号、E-mailアドレス〕、ページ数、図表の数を記載する。表題、著者名、所属は、英語も併記すること。なお、著者の所属欄に肩書・資格は載せない。

#### 【例】

手指細菌叢回収に関する検討

五反田花子<sup>1, 2</sup>, 池田山太郎<sup>1</sup>, 白金二郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東京医療保健大学大学院

<sup>2</sup>医療センター

Study on the Recovery of Hand Skin Flora

Hanako Gotanda<sup>1, 2</sup>, Taro Ikedayama<sup>1</sup>, Jiro Shirogane<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Division of Infection Prevention and Control, Tokyo Healthcare University Postgraduate School

<sup>2</sup>Medical Center

連絡先

五反田花子

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 感染制御学領域

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17

電話番号 03-0000-0000

E-mailアドレス hana00@thcu.ac.jp

ページ数：3

図表：4

### 12.2. 要旨

背景・目的、方法、結果・結論の項目立てを行い、簡潔に理解できるように記述する。特に、新しい知見などの投稿論文の「特徴・意義」に関しては、明らかにわかるように記述する。

## 12.3 キーワード

キーワードは、5語以内で、日本環境感染学会ホームページに掲載されている用語集等を参照し、記載する。

## 12.4. 本文

### 12.4.1 はじめに

過去の文献を引用しながら、研究に至った経緯や研究目的をわかりやすく述べる。

### 12.4.2 方法

疾患名などは、医学用語辞典などにある正式な用語を使用する。研究の対象や観察方法、評価方法をわかりやすく記述する。

### 12.4.3 結果

読者が理解しやすいよう、可能な限り方法の項と連動させて記述する。図表は、読者が理解しやすいよう工夫して作成する。本文で簡単に記述できるものは、図表にしない。図表を使用する場合は、図表内容（成績）をそのまま重複して本文に記述するようなことはしない。必要に応じて統計処理を行い、結果の解釈の妥当性を示す。

### 12.4.4 考察

結果の単純な繰り返しは避ける。論旨に一貫性があり、読みやすいように工夫すること。新しい結果（知見）や特徴的な知見については、過去の論文との対比を行い、投稿論文の“価値”ができる限り容易に理解できるよう記述する。

### 12.4.5 謝辞

本文中で謝辞を述べる際には、関係者同志が事前に確認し合い了解を得ることを前提とし、編集委員会はこれに関する責務を負わないものとする。

## 12.5 利益相反

記載例を下記する。

【例1】本研究は〇〇の資金提供を受けた。

【例2】〇〇は〇〇株式会社の社員である。

【例3】〇〇は〇〇株式会社の顧問である。

【例4】利益相反はない。

## 12.6 引用文献

引用文献は、医学中央雑誌、PubMed等に掲載されている学術文献や厚生労働省報告などとし、商業誌の引用は可能な限り避けること。

本文中の引用した箇所の右肩に片カッコ付で番号を付して引用順に末尾に一括し、次の形式によって記載する。雑誌名の略記は、医学中央雑誌およびIndex Medicusに従う。引用文献の記述形式はVancouver' styleの最新版に準ずる。すなわち著者が6名以下の場合は全員記載し、7名以上の場合には初めの6名を載せ、以下“他”とする。著者のイニシャルの後にピリオドは不要。また、雑誌名は、斜体文字で記載する。

【例】

雑誌等の場合

- 1) 宇賀神諭, 小林寛伊, 大久保憲. 感染制御における薬剤師の役割. *医療関連感染* 2008; 1: 18-21.
- 2) 小林寛伊, 大久保憲, 木津純子, 藤井昭, 朝野和典, 尾家重治, 他. 臨床研修指定病院における病院感染制御の取り組みの実態調査. *環境感染* 2006; 21: 200-8.
- 3) Fallon RJ. Nosocomial infections with *Legionella pneumophila*. *J Hosp Infect* 1980; 1: 299–305.
- 4) Sekimoto M, Imanaka Y, Kobayashi H, Okubo T, Kizu J, Kobuse H, et al. Impact of hospital accreditation on infection control programs in teaching hospitals in Japan. *Am J Infect Control* 2008; 36: 212-9.

書籍の場合

- 1) 小林寛伊. ウイルスの消毒. 於: 山口恵三, 戸塚恭一編. *Key Word 感染症*. 第2版. 東京: 先端学社 2008; 30-32.
- 2) Washington JA, Barry AL. Dilution test procedures. In: Lennette EH, Spaulding EH, Truant JP, Eds. *Manual of Clinical Microbiology*. 2nd edn. Washington, DC: American Society for Microbiology 1979; 410–417.

インターネットの場合

- 1) 大久保憲. 医療施設における院内感染（病院感染）の防止について. 平成15年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）分担研究報告書 国、自治体を含めた院内感染対策全体の制度設計に関する緊急特別研究: <http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/02/tp0202-1a.html>: 2015年4月25日現在.
- 2) Boyce JM, Pittet D; Healthcare Infection Control Practices Advisory Committee; HICPAC/SHEA/APIC/IDSA Hand Hygiene Task Force. Guideline for Hand Hygiene in Health-Care Settings: recommendations of the Healthcare Infection Control Practices Advisory Committee and the HICPAC/SHEA/APIC/IDSA Hand Hygiene Task Force. *MMWR Recomm Rep* 2002; 51(RR-16): 1-45. <http://www.cdc.gov/mmwr/PDF/rr/rr5116.pdf>. accessed April 22, 2015.

### 13. 数字、略語、細菌名

#### 13.1. 数字、単位

数字は、アラビア数字を用いる。

単位は、cm、mm、 $\mu\text{m}$ 、nm、L、dL、mL、 $\mu\text{L}$ 、kg、g、mg、 $\mu\text{g}$ 、ng、pg、 $^{\circ}\text{C}$ 、%、hr、min、secなどを用いる。符号の後に点を付けない。

#### 13.2. ローマ数字、ギリシャ文字等

ローマ数字、ギリシャ文字、アクセント付き文字は全角の特種文字を使用せず、アルファベットの組み合わせで代用する（例：Ⅲ → III、ö → oe）。○囲み数字（例：①）は使用しないこと。

#### 13.3. 略語

略語は、最初は略さず記載し（ ）内に略語を記載する。タイトル、邦文要旨、本文、英

文要旨は、独立したものとして扱い、略語はこのことを念頭において使用する。

【例】infection control doctor (ICD)

感染管理認定看護師 certified nurse in infection control (CNIC)

クロルヘキシジングルコン酸塩 (CHG)

バンコマイシン塩酸塩 (VCM)

クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

### 13.4. 細菌名

細菌の名前は学名を用いてイタリック体(斜体)で記載する。最初はフルネームで記載し、二回以上繰り返して使用する場合は、属名だけを略し種形容名は略さない。例えば最初は、*Staphylococcus aureus* とし、二度目以降は、*S. aureus* とする。ピリオド「.」の後は、半角1スペースを空ける。論文を書くときに、要旨と本文は独立して考え、本文の初出時の菌名は、フルネームで記載する。

種 species の略語である「sp.」は単一の種で、「spp.」は複数の菌種が含まれる時に用いる。

【例】(1) *Staphylococcus spp.*は、マンニット食塩寒天培地に発育する。

(2) 血液培養から分離された *Staphylococcus sp.*は、溶血性を示した。

(1)は、*Staphylococcus* 属に含まれる菌種、複数菌種が含まれる。(2)では、血液培養から検出された一菌種の *Staphylococcus* について述べている。

### 13.5. その他

生菌数の測定時に使用するコロニー形成単位 colony-forming unitsの略語である「CFU」は大文字とする。

## 14. 論文ファイル作製に関する規定

### 14.1. 使用ソフト

本文はMicrosoft Wordで作成し、図表はMicrosoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint等で作成する。

### 14.2. 本文データ内容

- (1) 表紙、要旨、キーワード、本文、引用文献、利益相反に関する記述、英文要旨と英文キーワードをMicrosoft Wordの1ファイルに収めること。
- (2) 表紙を1ページとしたページ番号を記入すること。
- (3) 行番号を第1ページからの通し番号で表示すること。

### 14.3. 用紙設定

- (1) 原稿サイズはA4版で統一し、用紙の上下左右に2cm以上の十分な余白を取る。
- (2) 本文は1段組とし、MS明朝体12ポイントの書式設定とする。

### 14.4. ファイル名

ファイル名は、筆頭著者名が五反田花子の場合、「五反田花子 本文」とする。

### 14.5. 図表のデータ内容

- (1) 図および表は1図表につきA4版用紙1枚に作成し換算する。当該ページ内に必ず図表のタイトル（図1. ○○、表1. ○○）や注釈を記すこと。
- (2) 図、表、写真は、基本的に横10cm程度で掲載されるので、図表内の文字が明瞭に判読できるようにすること。
- (3) 図、表、写真は、カラー掲載の必要がある場合以外は、白黒（グレースケール）のデータとすること。白黒印刷で判別できるように注意して作成する。学会発表に用いたスライド原稿をそのまま図表原稿にしないこと。論文の図表にふさわしい形で作成すること。
- (4) 図、表、写真をカラーで掲載する場合の諸費用は、著者負担とする。
- (5) 図表の挿入場所を本文に明示すること。
- (6) 図表は本文とは別のファイルに保存し、投稿すること。ファイル名は、筆頭著者名が五反田花子の場合、「五反田花子 図表」とする。

#### **14.6. ファイル容量**

本文、図表、その他必要書類のファイルデータを合計10メガバイト（MB）以内にする  
こと。

#### **15. 校正**

著者校正は誤字の訂正程度を1回とする。

#### **16. 別刷**

別刷の配布は、行わない。別刷が必要な場合は、印刷・製本元へ相談し、費用等は著者の負担とする。